

癌化学療法輸液約束処方 共通レジメン

癌種 非小細胞肺癌、尿路上皮癌、腎細胞癌(進行再発または術後補助化学療法)、ホジキンリンパ腫、頭頸部癌
MSI-High固形癌、食道癌PD-L1陽性・ホルモン受容体陰性・HER2陰性乳癌

レジメン名

共通PEMBRO

周術期投与期間要注意

薬品名(商品名)	一般名	略号	標準投与量	投与経路	投与時間	投与日	1クール期間
キイトルーダ	ペムブロリズマブ	PEMBRO	200mg/body	div	30分	DAY 1	21日
			400mg/body				42日

[DAY 1]

- ① NS 100ml / 15分
- ② NS 100ml + キイトルーダ 200 or 400 mg / 30分(インラインフィルター使用)
- ③ NS 100ml / 全開 フラッシュ

【注意事項】

- ・術後補助化学療法は12ヶ月間まで
- ・再発、難治例に対し使用する
- ・希釈後の最終濃度を1~10mg/mlとする。
- ・投与の際にはインラインフィルターを使用すること。
- ・投与開始前及び投与中にTSH、FT3、FT4などを定期的に測定。
- ・有害事象に対し副腎皮質ステロイドを投与する際に、HBVの再活性化に注意。

<休薬規定>

- ・間質性肺炎: G1→投与延期を検討、G2→投与延期、G3→投与中止
- ・AST,ALT≥Grade3
- ・大腸炎、下痢: G2→投与延期(G1→再開)、≥G3→投与中止
- ・非血液毒性≥Grade3
- ・肝機能障害: G2→投与延期(ベースラインまで改善→再開)、≥G3→投与中止
- ・自己免疫疾患の発症
- ・内分泌障害、副腎クリーゼ: 投与延期または中止
- ・神経毒性: G2→投与延期(ベースラインに改善→再開)、≥G3→投与中止
- ・皮膚毒性: ≥G3→投与延期(G1→再開)
- ・腎毒性: G2→投与延期(G1→再開)、≥G3→投与中止
- ・1型糖尿病、脳炎、静脈血栓症: 専門医と連携し投与中止も検討